

地球温暖化問題への大学生の知識と意識に関するアンケート調査の報告
A Report of the Questionnaire about the Knowledge and Consciousness of Undergraduate Students
on the Issue of Global Warming

○小石和成

○Kazunari KOISHI

The global warming issue needs to tackle not only by transient social concern but by long-term view. Here, a result of questionnaire survey about the knowledge and consciousness to global warming for the purpose of the basic data creation of the educational materials on climate change and global warming countermeasures in countries or local governments is reported. Those surveyed are undergraduate students who take a lecture on the liberal arts, and survey items consist of knowledge and consciousness to the environmental problem. As consciousness to the countermeasures, we also investigated in terms of whether people should change their lifestyle or not. High environmental awareness was found out from the people's concern. There were responses in relation to the global warming countermeasure. For instance, they required the reduction of environmental impact coming from energy consumption. They also preferred the opinions that it should address even if it changes lifestyle. As an educational side, ambiguous knowledge about cause of global warming was seen. In order to overcome ambiguous knowledge and to take advantage of young people's high awareness on this issue, it is necessary for education of global warming to cooperate with countermeasures (such as applications of low-carbon energy techniques reducing CO₂ or uses of risk information on natural disasters posed by global climate change).

1. はじめに

本報告では、地球温暖化問題についての現在の大学生の理解度、関心の度合いを、客観的に把握することを第一の目的とする。また、国や自治体での温暖化防止の取り組みへの利用、あるいは地球温暖化に関する教材作成に参考となる基礎資料となることを第二の目的としている。

2. アンケートの調査内容

アンケート調査は、京都産業大学での平成 24 年度の教養科目履修者を対象とした。調査期間は、地球温暖化の内容を取り扱う講義の前後の 2 度に渡って行った。回答数は講義前後でそれぞれ 151 人と 186 人である。調査内容は、地方自治体での地球温暖化に対するアンケートを参考に作成し、地球温暖化についての関心、知識、情報源や、対策への意識についての質問を行った。

3. 結果とまとめ

アンケート結果では、地球温暖化に興味を持っている履修者は多く、取り組みについても前向きな意見は 8 割を超えていた。理解度や知識についてのアンケートからは、履修者の殆どが小学校か

ら高等学校での授業で学習していたと答えたにも関わらず、オゾンホールと地球温暖化との要因を混同して認識していた。授業後にはこの理解度が改善していたことから、大学生への地球温暖化に関する知識には定着が求められているといえる。

また、対策に関連した質問には、省エネルギーの取り組みや温室効果ガスを削減できるクリーンエネルギーの普及が必要という項目を 4 割以上の履修者が支持していた。一方で、ライフスタイルをどれだけ変更して地球温暖化対策を行うべきかというアンケート調査では、7 割もの履修者がライフスタイルを変えても行うべきと答えていた。

今回のアンケート結果から得られたような、知識として誤解のある点を改善し、大学生の温暖化問題・対策への高い意識を生かすためには、単発的に終わらない教育の場が必要であるといえる。継続的に気候変化について知ることができ、温暖化対策を学べるような機関・組織の協力が必要である。例えば、低炭素エネルギー技術の利用や、気候変化によって増加する自然災害のリスク情報活用等の、温暖化への緩和策・適応策を実行している機関と連携した温暖化教育はひとつの有効な解決策として推進されるべきである。